

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																		
大阪ハイテクノロジー専門学校	昭和62年4月1日	近藤 雅臣	〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119																		
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																		
学校法人 大阪滋慶学園	昭和62年4月1日	浮舟 邦彦	〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 03-6734-2939																		
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																	
文化・教養	文化・教養専門課程	スポーツ科学科	平成22年文部科学省告示第152号	-																	
学科の目的	本学科は、競技スポーツ、生涯スポーツ、地域スポーツなどスポーツに関わる様々な場面において、コンディショニングや障害の予防・管理、運動指導等を提供できる人材育成を目的とする。特に実践力を高めるために、現場での実習に重点を置いた教育指導を行う																				
認定年月日	平成26年 3月31日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
	2年 昼間							2280時間	720時間	1230時間	330時間	0	0								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																
80人	53人	0人	2人	13人	17人																
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席点20%、平常点10%、試験点70%などを総合的に評価する																	
長期休み	■夏季:8月2日～9月8日 ■冬季:12月20日～1月5日 ■学年末:1月11日～3月31日 ※コロナ感染症の影響により変更予定		卒業・進級条件	所定の科目の全てに合格(60点以上)し、かつ出席率が67%以上であること																	
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的な個人面談、電話や直接面談による保護者との連携		課外活動	■課外活動の種類 企業実習、バスケットボール部、軟式野球部、サッカー部、バレー部、テニス部、水泳部、トレーナーチーム他 ■サークル活動: 有																	
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成31年度卒業生) 株式会社リーデン、株式会社ウイング、社会福祉法人桜谷福祉会、株式会社あらたか、株式会社河合楽器製作所、株式会社フュービック、株式会社サップス、リフ		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に係る令和3年5月1日時点の情報)																	
	■就職指導内容 履歴書指導、面接練習、業界研究他			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康運動実践指導者</td> <td>②</td> <td>29人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>JATITレーニン指導者</td> <td>②</td> <td>29人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>アスレティックトレーナー</td> <td>②</td> <td>7人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	健康運動実践指導者	②	29人	17人	JATITレーニン指導者	②	29人	15人	アスレティックトレーナー	②
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																		
健康運動実践指導者	②	29人	17人																		
JATITレーニン指導者	②	29人	15人																		
アスレティックトレーナー	②	7人	1人																		
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和2年4月1日時点において、在学者56名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者55名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、家庭の事情等		■中退率 1.8%																		
	■中退防止・中退者支援のための取組 定期的な個別面談、入学前教育の実施(プレスクール、入学前課題)、学生サポートアンケートの実施、スコラ手帳の活用																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象2名 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 評価団体: 私立専門学校等評価研究機構 評価受審年月日: 平成24年3月31日 評価団体: 一般社団法人専門職高等教育質保証機構 評価受審年月日: 平成31年2月15日																				
当該学科のホームページURL	http://www.osaka-hightech.ac.jp/common/doc/school/approval/sp.pdf																				

(留意事項)

2. 就職等の状況(※2)

3. 主な学修成果(※3)

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が感じている業界のニーズをいち早くカリキュラムに落とし込み、実践力のある人材育成を担うこと

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は理事会直轄の独立した委員会組織であり、学内の教務部や事務部とは別に運営される組織である。教育課程編成委員会の位置付けについては、「学校法人大阪滋慶学園 教務組織規則」「学校法人大阪滋慶学園 教育課程編成委員会規定」および組織図に明記されている。教育課程編成委員会の意見は学校内で十分に検討した上で、学科のカリキュラムや教育指導内容に反映する。反映にあたってはスポーツ科学科の学科長をはじめとする学科教員が主体的に行い、必要に応じて教務部長、事務局長、学校長と相談・了承のうえ反映する。学則変更を伴う場合は、理事会の承認を得たうえで反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
上田 忠佳	DSファーマバイオメディカル株式会社	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
永井 慎	NPO法人 日本バイオ技術教育学会 岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学科	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
赤澤 夏郎	株式会社プレンプロジェクト	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
鈴木 謙三	マテック八尾(八尾経営・技術交流会)	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
前田 茂	一般社団法人 メディカル・フィットネス協会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
清田 源	株式会社 パーフェクトトレーナーズ	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
増井 英明	公益社団法人 大阪府柔道整復師会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
錠内 千佳江	柔之道整骨院	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	③
尾崎 卓宏	ホリスティックメディカルジャパン	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
志和 輝彦	有限会社 J-RADIANCE かがやき整骨院	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
丹波 徹二	公益社団法人 大阪府鍼灸師会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
木村 辰典	木村鍼灸院	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
杉浦 正人	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会 関西医科大学香里病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
宮本 哲豪	宗教法人 在日本南ブレスピテリアンミッション 淀川キリスト教病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
小嶋 宏典	社会医療法人 祐生会 みどりヶ丘病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
徳永 政敬	一般社団法人 兵庫県臨床工学技士会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
佐原 朋広	公益社団法人 大阪府診療放射線技師会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
藤田 秀樹	公益社団法人 大阪府診療放射線技師会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	①
石田 貴大	株式会社 互恵会 大阪回生病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③
福西 康修	医療法人 友誼会 彩都友誼会病院 公益社団法人 日本放射線技術学会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は年2回の実施(7月・1月)

(開催日時)

第1回 令和3年7月上旬実施予定 18:30～20:30

第2回 令和4年1月中旬実施予定 18:30～20:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

【①基礎学力の強化について】授業時間外に補習時間を定期的に設置することで解剖学の繰り返しや小テストなどを実施することができ、基礎知識の定着につながった。就職後にも必要なスキルとなるため学び方の指導は継続していく。
【②社会に寄り添ったビジネスモデルの構築をされてはどうか】ウエイトトレーニングの普及に伴いパーソナルトレーナーを志望する学生の増加状況を鑑み、あらゆる方向性に対応できるよう業界で活躍されているS&Cコーチを3名に増加して非常勤講師として協力をいただく環境を設置している。フィットネスクラブマネージメント検定の導入は次年度の課題としている。
【③社会情勢の基礎講座の必要性について】昨年度よりニュース検定を導入して、キャリア教育の時間の中で社会常識や時事問題、ニュースについて触れる機会を増やすことで新聞を読むことや、ニュースをみることにつなげる仕組みを構築中である。またジョブカードの作成と並行して就職活動への支援になるようサポートしている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係								
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針								
学生にとって卒後の働くイメージが高まる内容であること、企業にとっても利益がある内容であること								
(2)実習・演習等における企業等との連携内容								
本学科は学外実習と学内実習との2つの実習を行っている。学外実習に関しては主に卒業研究や企業訪問実習などの産学連携授業を展開している。また、これらはスポーツトレーナーが活躍している実習先で、競技特性に合わせた技術やスキルを学ぶことや、社会の一部に触れることによって、社会人基礎力を含めた総合力を身につけることを素地としている。さらに、企業(担当者)には最先端の知識や技術を教えていただけるように前もって調整を行っている。学内実習においては、専任教員が担当している社会人チームやスポーツイベントに学生と共に教員が帯同し知識や技術を養っている。								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>卒業研究</td> <td>自らの興味関心のあるテーマに沿って研究活動をすすめる</td> <td>貴島病院本院、整形外科なかむらクリニック、渡辺整骨院、スポーツクラブZEOS 泉佐野、PEP大阪、メディカルフィットネスルームTMCC、株式会社あらたか、WAFAC鍼灸整骨院、マック体操クラブ、株式会社幼児体育振興会 他</td> </tr> </tbody> </table>			科目名	科目概要	連携企業等	卒業研究	自らの興味関心のあるテーマに沿って研究活動をすすめる	貴島病院本院、整形外科なかむらクリニック、渡辺整骨院、スポーツクラブZEOS 泉佐野、PEP大阪、メディカルフィットネスルームTMCC、株式会社あらたか、WAFAC鍼灸整骨院、マック体操クラブ、株式会社幼児体育振興会 他
科目名	科目概要	連携企業等						
卒業研究	自らの興味関心のあるテーマに沿って研究活動をすすめる	貴島病院本院、整形外科なかむらクリニック、渡辺整骨院、スポーツクラブZEOS 泉佐野、PEP大阪、メディカルフィットネスルームTMCC、株式会社あらたか、WAFAC鍼灸整骨院、マック体操クラブ、株式会社幼児体育振興会 他						
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係								
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針								
スポーツ・健康分野は行政の動向や社会のニーズの把握が重要であるため、教員自身が専門分野について学ぶための研修の充実が必要である。そのため、外部で開催される専門分野に関する研修や学会等には積極的に参加を促している。また、学生の変化(学力、意欲等)も多様化しているため、授業の方法などについても新たな取り組みが必要である。学校内でFD委員会を設置し教員を対象とした授業見学等の研修を実施している。学校内および学園内で実施する研修は原則として参加が義務付けられており、学外で実施される研修については、教員の代表者が出席してその内容について会議等で報告することとなっている。研修に於いては、学校法人 大阪滋慶学園 教員研修規定に定められている。								
(2)研修等の実績								
①専攻分野における実務に関する研修等								
専門分野の研修として、一般社団法人滋慶教育科学研究所(JESC)の「スポーツ科学教育部会」主催の研修が平成29年9月に開催され、本学科教員1名が出席した。この研修では、スポーツ基本法制定以後の行政や業界の動向について報告と討議が行われた。								
②指導力の修得・向上のための研修等								
学校法人大阪滋慶学園の専門学校の教員・学科長を対象とした「教員研修(5、8、3月)」「学科長研修(5、7、11、2月)」においては、授業方法の改善、学生指導法やキャリア教育などについて研修を行うと同時に業界の動向と専門分野における実務に関する知識・技術・技能についても学んだ。その他、滋慶教育科学研究所主催の「教職員カウンセリング研修(11月)」では多様な学生への対応法などについて研修を行った。								
(3)研修等の計画								
①専攻分野における実務に関する研修等								
専門分野の研修である滋慶教育科学研究所主催の研修「スポーツ科学教育部会」を今年度も年数回実施予定。内容に関しては、スポーツ業界における行政や地域ニーズ等の動向についてを計画している。フィットネスクラブ・マネージメント技能検定という新資格についてもJESCで資格の背景を学び、各校受験へとつなげるようになった。また資格の合格率向上のための模試作成や、実習などのシステムについても部会で共有している。								
②指導力の修得・向上のための研修等								
授業の方法や学生指導については、大阪滋慶学園主催の「教員研修(年3回)」および「学科長研修(年4回)」に教員全てを参加させ、研修を通じて授業方法の改善や学生指導法、キャリア教育について受講し知識の豊かさを向上させる予定。								

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校の諸活動においてその方針と評価結果を公表することは、開かれた学校として当然の責務であり、また学校外の方々からフィードバックをいただくことは学校運営の改善につながることもある。
本校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、毎年、自己点検・自己評価を実施する。その結果について学校関係者評価委員会において説明を行い、学校関係者評価委員より評価をいただいている。学校関係者評価委員会には、学校長や教務部長などとともに、学校関係者の代表として学生の保護者、卒業生、高等学校、地域、業界からが委員として参画している。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、学校の特色、学校の将来構想
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事制度、意思決定システム、情報システム
(3)教育活動	学科の教育目標、教育到達レベル、カリキュラムの体系化と科目配置、キャリア教育、授業評価、教員の確保、教員研修、成績評価基準、資格取得指導
(4)学修成果	就職率、資格取得率、退学率、学生・卒業生の社会的活躍
(5)学生支援	就職支援、学生相談、経済面支援、健康管理体制、課外活動、生活環境支援、保護者連携、卒業生支援
(6)教育環境	施設・設備、学外実習、防災体制
(7)学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の開示、入学選考、学納金
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	法令遵守、個人情報保護、自己点検・自己評価とその公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献活動、ボランティア活動
(11)国際交流	国際交流の取組み

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での議事内容、および学校関係者評価委員より得られた意見等は速やかに学内で討議を行い、必要に応じて具体的な改善を図る予定である。現状は退学率・資格合格率改善を目標に月1回教員全員参加の会議を行い、意見交換・事例発表等を行っている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
林 明美	保護者代表	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	保護者代表
谷本 みゆき	保護者代表	令和3年4月1日～令和4年3月31日(1年)	保護者代表
田中 幸恵	近隣関係者	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	地域代表
釜本 浩明	精華高等学校	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	高等学校
胡本 晃敏	生命工学技術科卒業生	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	卒業生代表
木村 政義	臨床工学技士科卒業生 兵庫医科大学病院	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	卒業生代表
小西 正和	ナカライテスク株式会社	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
坂本 俊雄	一般社団法人 i-RooBO Network Forum	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
臼井 達也	学校法人 大阪成蹊大学	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
尾藤 何時夢	公益社団法人 和歌山県柔道整復師会	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
奥本 憲司	公益社団法人 大阪府鍼灸師会(奥本鍼灸院)	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
山本 桂	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会(医療法人 蒼龍会 井上病院)	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員
山口 道弘	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター	令和2年4月1日～令和4年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL:http://www.osaka-hightech.ac.jp/common/doc/school/disclosure/09_gakko_hyoka3.pdf

公開時期:毎年7月末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
自己点検・自己評価結果等、学校運営や教育活動に関連する情報については、積極的に公開して広く社会に対する説明責任を果たすとともに、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や社会からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の理念、大阪滋慶学園について、学校の沿革
(2) 各学科等の教育	教育システムと教育スケジュール、学科の教育目標、教育課程、学科紹介、学年暦
(3) 教職員	学校長挨拶、教員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学外実習、学外研修の手引き、特別講義・業界講演、海外研修、卒業研究・課題研究、就職フェア、生涯教育システム
(5) 様々な教育活動・教育環境	入学前教育、資格サポート、就職サポート、施設・環境
(6) 学生の生活支援	学校生活サポート、Work & Study、クラブ活動・学生寮、保護者説明会
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧、学費サポート
(8) 学校の財務	法人財務状況
(9) 学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価、第三者評価
(10) 国際連携の状況	国際交流
(11) その他	社会貢献・地域貢献、高専連携、ボランティア活動

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure/>

ホームページにて情報の開示

授業科目等の概要

(文化教養専門課程スポーツ科学科 令和3年度)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンピューター演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	コンピューターの基礎的理解と操作をもとに、文章作成や情報処理、更にはブラウザに関する技能を習得する	1通2前	90	3		○		○			○	
○			滋慶選択科目(J選)Ⅰ・Ⅱ	本校とグループ校で開講する選択授業科目の中から興味にあわせて自由に選択し、受講できる選択授業システム	1通	60	4	○	△		○	○	○	○	
○			総合(社会人基礎力)演習	職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事をしていくために必要な基礎的な力を多角的な知見から学習する	1通2通	120	8		○		○		○		
○			卒業研究(ゼミ)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	自らがテーマを選定し、情報の収集から結果の検証、考察までを体系だてて習得していく	1後2通	150	5		○		○	○	○		
○			トレーナー概論	スポーツトレーナーを目指すにあたって制度、役割、組織の運営と管理、倫理を学び、心構えを形成する	1前	30	2	○			○		○		
○			国際トレーナー論	海外研修を通じて国際的な視野からのトレーナーに関する技能習得や職業観について考える	2後	30	2	○				○	○		
○			解剖生理学Ⅰ・Ⅱ	人体の構造や生理学的な仕組みを学習し、生命の営みを理解する。生体の恒常性を考える	1後2前	60	4	○			○			○	
○			機能解剖学Ⅰ・Ⅱ	人体を機能的側面から捉え、骨・関節・筋に関しての働きについて理解する	1通	60	4	○			○		○		
○			運動生理学Ⅰ・Ⅱ	運動をすることによって起こる身体の変化や適応状態についての基礎的な知識を学ぶ	1通	60	4	○			○		○		
○			体力科学/運動プログラミング	運動をすることによって起こる身体の変化や適応状態についての基礎的な知識を基に、実験を通じ生体反応を計測し運動処方を立案する	1前	60	4		○		○		○		
○			スポーツ栄養学Ⅰ・Ⅱ	スポーツ選手として知っておきたい食事と栄養の基本、および一般人の健康維持増進のための食事や運動への取り組み方を学ぶ	1通	60	4	○			○			○	

○		スポーツ指導論	スポーツ技術向上のための指導のみならず、健康増進や体力向上のためのスポーツ指導法について学ぶ	1後	30	2	○			○		○		
○		健康管理概論	健康づくりや疾病予防の基礎的な知識や考え方を理解し、各年代層に応じた健康指導を学ぶ	1前	30	2	○			○				○
○		スポーツ社会学	スポーツと社会のかかわりや、文化としてのスポーツ指導およびその諸問題について学ぶ。またスポーツ行政について学ぶ	1前	30	2	○			○		○		
○		スポーツ心理学	運動による心理的作用の変化や効果・弊害を通してストレスマネジメントの基礎を学ぶ	1後	30	2	○			○				○
○		スポーツ医学 I・II	スポーツ障害の発生機序や発生箇所、そして内科疾患において事例を通じて学び、対処や予防法を習得する	1通	60	4	○			○		○		
○		スポーツ外傷論 I・II	スポーツ外傷の発生機序や発生箇所において事例を通じて学び、対処や予防法を習得する	1後 2前	60	4	○			○				○
○		トレーニング I・II	トレーニングを実践指導していく上で必要な各種トレーニング法の習得と指導法を学ぶ	1通	60	2			○	○		○	○	
○		ストレッチ	ストレッチの基本となる理論・動作を理解し、対象者の目的に応じたストレッチの指導法を習得する	1前	30	1			○	○		○		
○		テーピング I・II	身体の機能解剖学的な理解のもと、障害の発生要因について学び、目的に合致した各種テーピング法を習得する	1通	60	2			○	○				○
○		スポーツマッサージ	スポーツ選手や運動実施者のコンディショニングを目的としたマッサージの理論・基本手技を習得する	1後	30	1			○	○				○
○		測定評価 I・II	目的や競技特性に応じた身体機能・体力の測定から選手の特徴やトレーニング課題を見つけサポートする	2通	60	2			○	○				○
○		アスレティックリハビリテーション I・II	スポーツ選手の上肢の受傷後の機能回復をもとに、競技復帰までの段階的リハビリテーション及びプログラミングについて学ぶ	2通	120	4			○	○				○
○		コンディショニング I・II・III・IV	競技スポーツや健康スポーツ、運動療法において、設定した目標達成に必要な準備プロセスについて学ぶ	1後 2通	120	4			○	○				○
○		運動療法 I・II	外科的障害者、慢性内科疾患及び健康維持増進に対する各種運動療法、運動処方とその原理について学ぶ	2通	120	4			○	○				○

○		救急処置法	事故を防止し、緊急時に必要な処置ができるように、正しい救急法の知識と技術を身につける	1前	30	1		○	○			○	
○		応急処置法	緊急時における適切な対処法と正しい救急法の知識と技術を身につける	1後	30	1		○	○			○	
○		水泳実習	水中運動および基礎泳法の理論と基礎技能の修得をする。更に水中における安全管理法を学ぶ	1前	30	1			○	○		○	
○		トレーナー実習	スポーツ現場でのトレーナー活動を通じて、学習技能の検証とサポート業務についての姿勢を習得する	2後	180	6			○		○		○
○		フィットネススタジオプログラムⅠ・Ⅱ	フィットネススタジオやプールプログラムの作成について学び、対象者を前にしてレッスン指導が行えるようになることを目指す	1通	60	2		○		○			○
○		健康運動実践指導者対策講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	「健康運動実践指導者」検定試験の対策講座（実技・筆記対策）	2通	90	5		○	△		○		○
○		JATIトレーニング指導者検定講座Ⅰ・Ⅱ	「JATIトレーニング指導者」検定試験の対策講座（筆記対策）	2通	60	4		○	△		○		○
○		パーソナルトレーナー検定講座Ⅰ・Ⅱ	NSCA「パーソナルトレーナー」検定試験の対策講座（筆記対策）	1後 2前	60	4		○	△		○		○
○		アスレティックトレーナー演習Ⅰ・Ⅱ（ゼミ）	JSP0「アスレティックトレーナー」検定試験の対策講座	2通	120	4		○		○			○
○		メディカルトレーナー演習Ⅰ・Ⅱ（ゼミ）	運動療法・疾病予防における運動処方・プログラムの内容を包括的に学習し各症例に関しての適切な対処法を習得する	2通	120	4		○		○			○
○		フィットネス&インストラクター演習Ⅰ・Ⅱ（ゼミ）	スポーツ愛好家への運動指導・健康指導に関する専門的なスキルを習得する	2通	120	4		○		○			○
○		スポーツチャイルド演習Ⅰ・Ⅱ（ゼミ）	運動や遊びを通じて子どもたちの心と発育をサポートする技能を習得する	2通	120	4		○		○			○
合計					37	科目	2640単位時間（120						単位）

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
出席率67%以上、当該学年の全ての科目が60点以上、学外実習修了で卒業認定とする。 卒業必用時間数は、2280時間（108単位）とする。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。